

大学名

旭川医科大学

第56号テーマ  
「地域医療」

表題

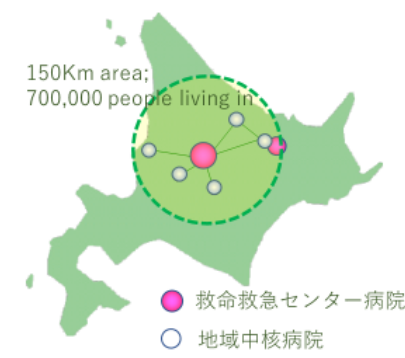
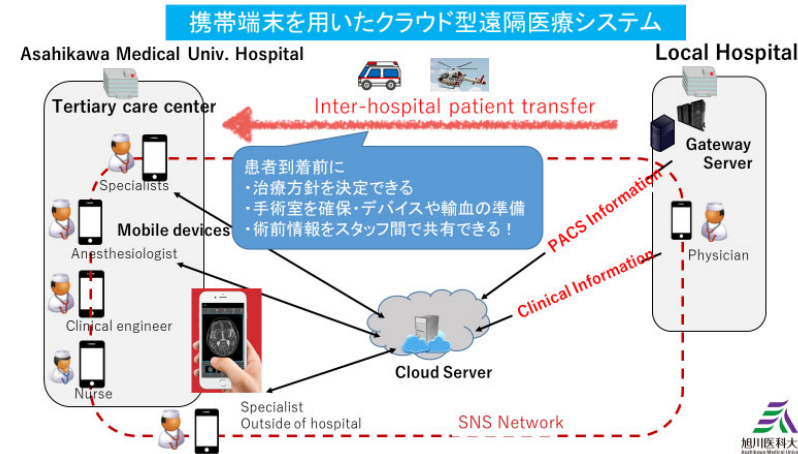
クラウド遠隔医療を救急疾患に応用した地域医療貢献および地域医療者支援

## 取材対応者

## 特色ある取組内容

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂といった難易度が高く、かつ、超緊急を要する疾患を治療するには、整った設備と心臓血管外科専門医を含む鍛錬されたチームを擁する病院に患者搬送する必要がありますが、地域で発見された緊急患者の臨床症状・血液検査所見および画像情報を高次救急病院で待ち受ける専門医集団に直ちに送信できれば、搬送の判断や搬送後の治療に非常に役立ちます。当大学では、地域中核病院で得られた情報をクラウドに送り、その情報に搬送先病院の医師や看護師・技師が各々の携帯端末でアクセスできるシステムを開発し、広大な北海道における限られた専門医への迅速なアクセスを可能にしました。総務省との共同研究事業としてクラウド遠隔医療の通信基準策定や通信安全性を確立した後、全国多施設臨床研究の拠点病院として全国の地域医療の環境改善に取り組んでおります。

本学は全国に先駆けて遠隔医療センターを1999年に設立し、以後、地域医療貢献の大きな柱として遠隔医療に取り組んでまいりました。これまで、●遠隔医療(国内50、国外9 医療機関)での25年にわたる実績と医療費削減による国家予算への貢献、●2006年、安倍総理の指示によりアジア・ブロードバンド計画をプロジェクトリーダーとして実施(旭川、シンガポール、タイを結び、立体ハイビジョン動画を送受信)、●ニューヨークプラザホテルでの「クラウド遠隔医療」の記者会見(2016年12月3日)。日本人のプラザホテルでの記者会見は、ソニーの盛田昭夫氏、ソフトバンクの孫正義氏に次いで3人目。記者会見の様子は、「NHKワールド」で世界に向けて1日に9回放映、●2017年1月、UAE 大学 学長に招待(2018年3月、国際遠隔医療を中東で展開するため、ドバイMBR大学を訪問し、MOUを交渉中)、●日露共同経済活動における官民調査団の一員(日本側の医療分野代表)として、サハリン州および北方四島を視察、●アジア最大医療グループIHHの CEO Dr Tan See Leng 氏と2018年1月18日に会談。2018年4月3日に、国際遠隔医療、新規開発したドップラーOCTおよびアジアの医師・看護師等、医療従事者を旭川で研修させるMOUを締結、●2018年、世界初、8K医療画像の開発に成功、●2019年1月、皇居・宮殿で行われた講書始の儀に参列、という流れで進めてきましたが、その一つが「クラウド遠隔医療」です。本学では、約400人の医師が大学の内外でスマートフォンを常備しています。今後このクラウド遠隔医療の適用を拡大してゆく所存であります。



外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野) 教授 副院長 東 信良



学長 吉田晃敏

## 上記取組による成果・評価 など

- ①**地域医療での救命救急医療貢献**: 本学はクラウド遠隔医療(CTM)の拠点として地域中核病院6施設と医療圏を超えて連携し、心臓血管外科救急疾患102例をCTMで受付け、広大な医療圏における救命救急に貢献してきた。病院到着までに手術室やスタッフ・手術に使用するデバイスの準備を進めることで、病院到着から手術開始までの時間がCTM導入前の約1/3に短縮され、患者到着前情報共有の重要性がアンケート調査でも明らかとなった。学会からも評価され、学会主導の全国多施設研究へ発展。
- ②**地方で働く医師支援**: CTMは搬送元一搬入先双方の情報共有ができ、専門医の意見・判断や治療結果を共有できることから、若手医師や、専門外でも救急に携わらざるを得ない地方医療者への支援効果は大きいと期待している。実際にアンケート調査でも高評価を得ている。

参考URL: <http://www.asahikawa-med.ac.jp/upload/20170405093729kouhouc.PDF>  
[http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/rinri/koukai/H30/18094\\_optout.pdf](http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/rinri/koukai/H30/18094_optout.pdf)